

我がふるさと深川

東京深川会 監事

石山 憲 治



音江にある深川西高の学校林は、昭和29年頃に桜の木を全員で植林した。あれから何年経ったのだろう。冬に蝦夷鹿や野兎の被害を受けて一時期は絶滅したように思う。現在は皆の力で害獣の被害から若木を守り、桜の花がちらほらと咲いているという記事を西高の機関紙「湧雲」で読みました。これからも深川西高の生徒たちが守って行ってほしい財産です。ところで深川橋に歩道が整備されたとのことですが、狭くて冬は特に歩き難かったことを思い出します。立派な町になったと思っております。深川市の努力が北空知の中核都市になっていることに目尻が下がる思いです。

現在の若者たちはすべて言葉をつめて就職活動を「就活」、結婚活動を「婚活」、学校のクラブ活動を「部活」と云うことが目に付く。もう一つは「終活」である。「おくりびと」という映画が有名になったが、人生の最後、いわゆる終を考えるとということらしい。私も七十九歳。これまでは送り人であったが、もう送られる側に近づいてきた。透析をしながら、耳は少し遠くなり、歯はほとんど少なくなり、俺もやっぱり齢だなあと思うことが多くなった。やっぱり「終活」を考えべきだろう。深川市納内に父母の墓がある。数年に一度しか墓参りに行っていないが、墓の下で父、母は「何をやってる、速く来い」と言っているような気がして仕方がない。

東京深川会の皆さんも同じようなことを言う人が多くなってきました。齢とともに遠出が億劫になってくる、体の調子が悪くてなかなかふるさと訪問が出来ない。と云うのが本音のようである。

東京なよろ会の活動

東京なよろ会 事務局長

藤原 一也



今年2015年は東京なよろ会創立30周年事業として8月6日～9日に「名寄今昔物語」を開催、ゴルフとふるさと訪問を組み合わせて関東地方の会員61名が北海道名寄市を訪れました。8月7日には名寄市民の方々と約40名と総勢100人で「市民交流会」を行い、屋外での煮込みジンギスカンなどに舌鼓を打ちました。



東京なよろ会の主な活動は、初夏の白樺ゴルフツアー、秋の近郊ゴルフ、冬のピヤシリスキーツアーのほか、名寄市特産品販売協力（初夏のアスパラまつり、秋のとうもろこしまつり、北海道産直フェア）、高門寺阿波踊り激励、総会・懇親会の開催などです。ふるさと名寄の近況をお伝えする「東京なよろ会だより」、「広報なよろダイジェスト版」を年3回お届けしています。

ピヤシリスキーツアーと白樺ゴルフツアーですが、これまでに首都圏などから延べ人数で6,554名が故郷名寄を訪問しています。名寄市民の心のこもった歓迎など手作りツアーとして知られ、リピーターとなっている方が多数となっています。

東京で開催される「名寄アスパラまつり」や「名寄とうもろこしまつり」など名寄の畑自慢産品の販売協力、および、「北海道産直フェア」での大福もち、ひまわり油など名寄特産品の販売協力などを行い、名寄産品の魅力を首都圏の方々に伝えています。

四季の語らい、
くつろぎのひととき。



アルカディア市ヶ谷
私学会館

JR線・地下鉄(有楽町線・新宿線・南北線) 市ヶ谷駅 徒歩2分
〒102-0073 東京都千代田区九段北4-2-25
TEL 03-3261-9921 FAX 03-3261-7760

BANQUET
宴会・会議

ACCOMMODATION
宿泊

RESTAURANT
レストラン

